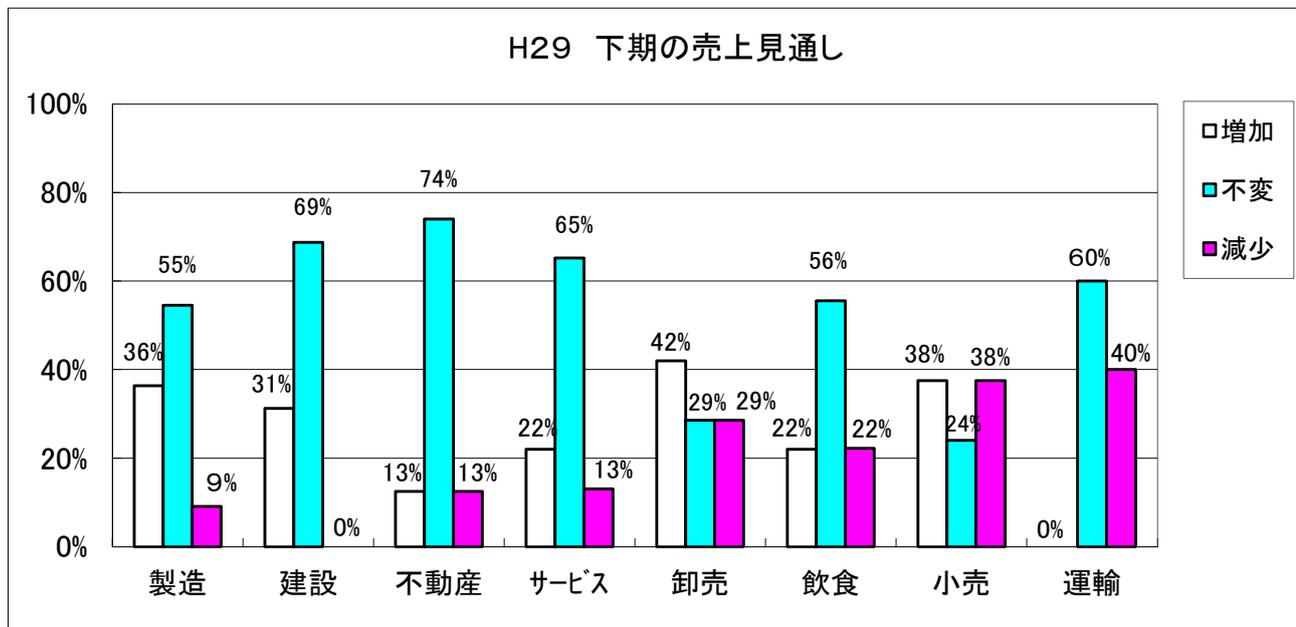


調査2 平成29年1月～6月を基準とした平成29年7月～12月の先行き見通しについて調査した。調査項目は調査1と同じ項目である。⑤業界の景気動向についてはすでに5～6ページで表示してあるのでここでは省略する。

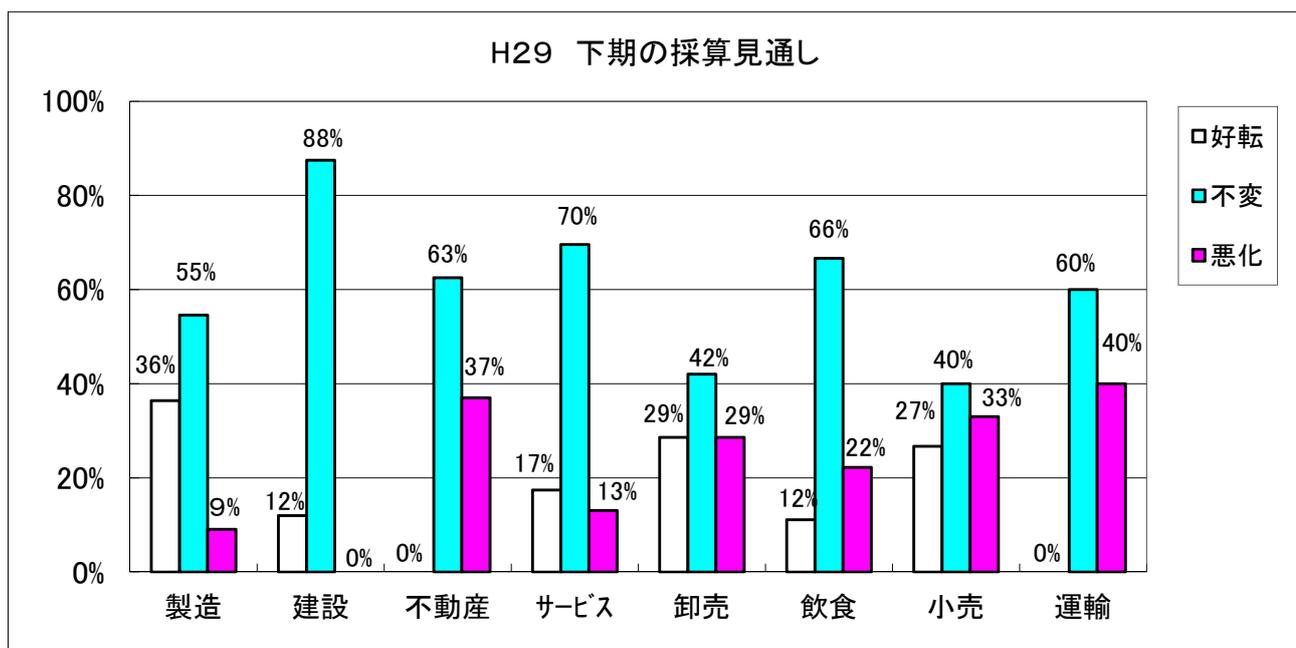
①売上見通し

全体で見ると「増加」27%（前回25%）、「減少」18%（前回28%）と若干改善の見通しとなっている。業種別で見ると「増加」する見通しが多かった業種は、卸売業（42%）、小売業（38%）。一方、「減少」する見通しなのが運送業（40%）であった。



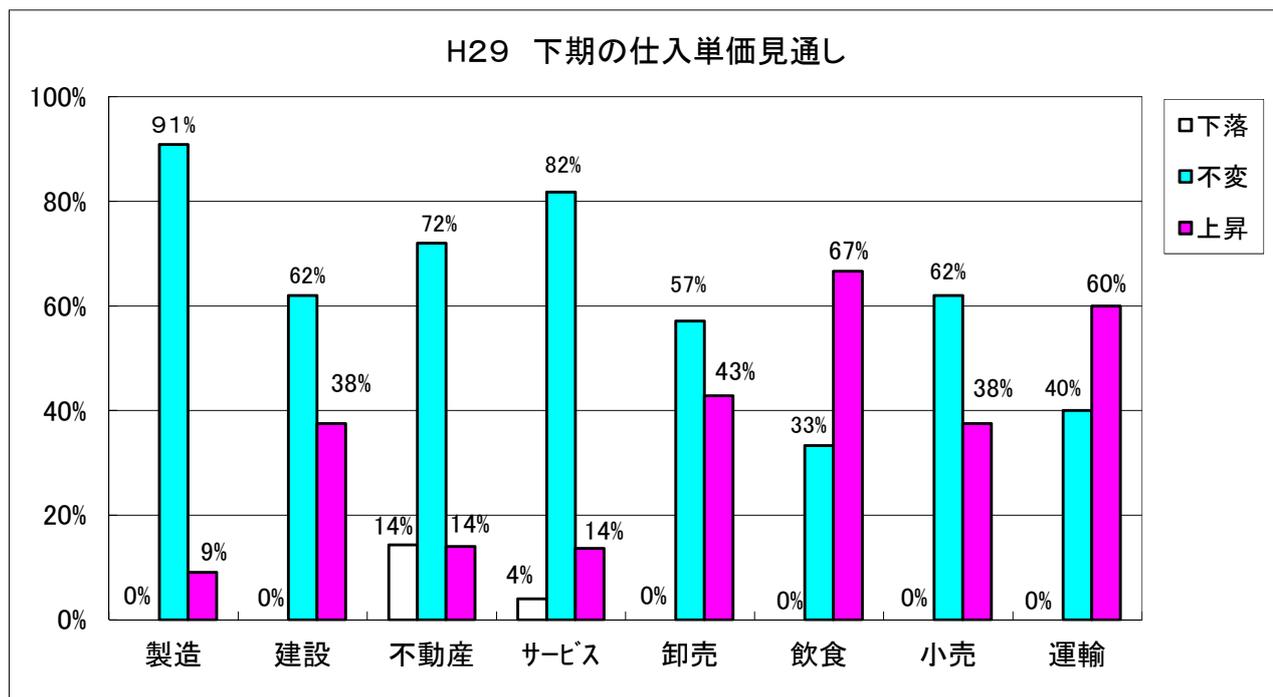
②採算見通し

全体的にみると、「好転」が18%（前回19%）、「不変」が63%（前回60%）、「悪化」が19%（前回21%）となった。業種では、「好転」の見通しが高いのが製造業（36%）でもっとも多かった。



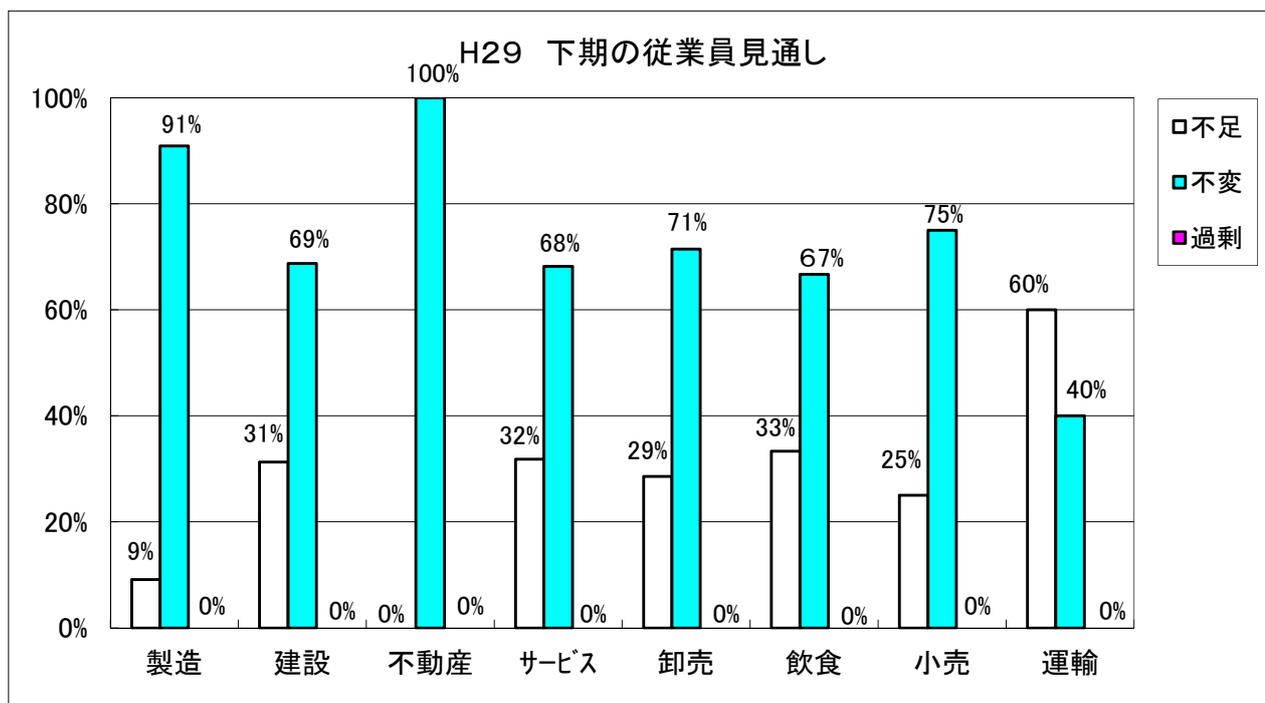
③仕入単価の見通し

全体的には、「不変」が67%と多いが、「上昇」が31%となっている。「上昇」が多いのが飲食業67%（前回87%）、運輸業60%（前回75%）と前回調査と同じ業種であった。



④従業員の見通し

全体的には、「不変」が73%と多いが、業種別でみると「不足」との見通しなのが、運送業60%（前回調査25%）でかなり深刻な状況である。

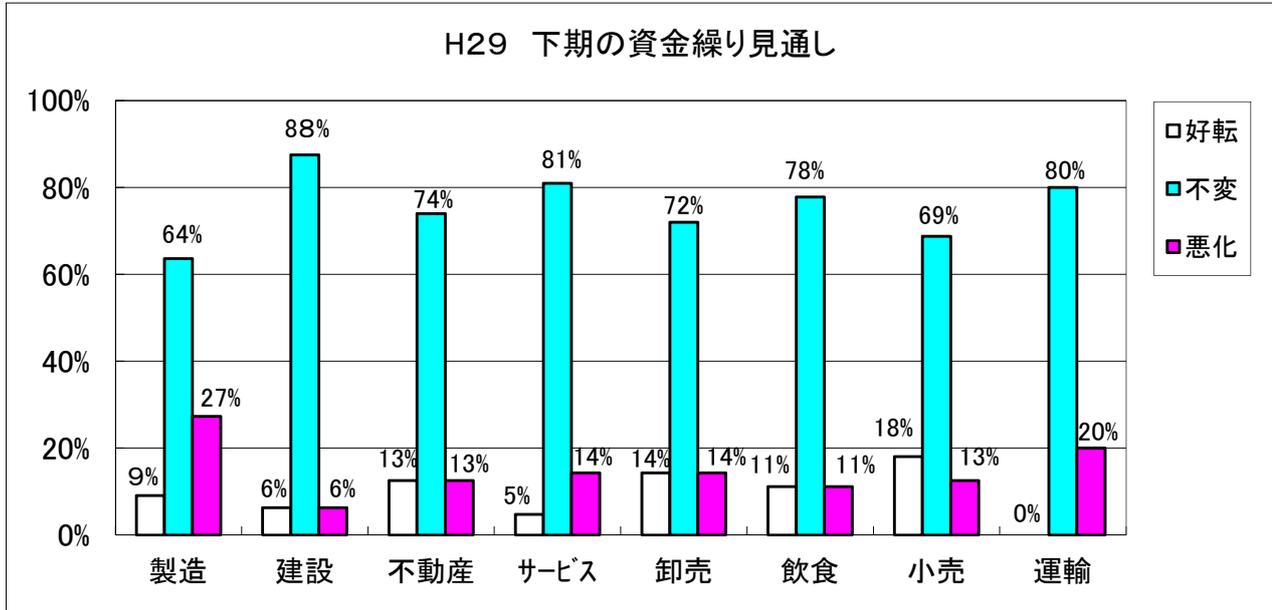


⑤業界の景気動向見通しについて

P5～6を参照。

⑥資金繰りの見通し

全体的に「不変」が76%と多く、「悪化」が14%、「好転」が10%であった。資金繰りが「悪化」の見通しが高いのが製造業27%（前回30%）であった。



⑦金融機関の融資状況見通し

全体的には「不変」(60%)が多く、続いて「融資無し」(22%)、「緩やか」(10%)、「厳しい」(8%)となっている。前回の調査結果とほぼ同様で融資状況については大きな変化は見られなかった。

